



特集

未来のためのSDGs

エスディージーズ

最近、新聞やテレビで見聞きすることが増えたSDGs。

これは、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。より良い未来のために、私たちができることについて考えてみませんか。

今

のままでは地球は「持続」できない……。こうした危機感から、2015年に国連が決めた、世界を変えるための目標がSDGs (Sustainable Development Goals)です。日本語に訳すと「持続可能な開発目標」。国連に加盟している193カ国が、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など2030年までに達成すべき17の目標(上のアイコン)と、これを達成するための169の具体的な目標を掲げました。世界中で取り組むことで、地球環境や社会を守りながら発展し続けることを目指しています。

この運動に取り組むのは、国連や政府だけではありません。民間企業や公共機関、そして私たち一人ひとりが当事者として参加することが期待されています。とはいえ、SDGsの目標は地球規模の大きなものが多いため、なかなか自分事を感じられないかもしれません。しかし、実際に細かく見ていくと、私たちの身の回りから行動を起こせるものが多くあります。よりよい未来のために、今から少しずつ取り組んでみませんか。

社会的課題の解決をゲームで体験

2030SDGsゲーム

SDGsを進めよう！(LINK) 国際社会が協調する難しさがあります。これを楽しみながら体験できるカードゲーム「2030SDGs」が、村でも、ひまわり大学や昭和中学校などで行われました。指導したのは、2030SDGs公認ファシリテーターの森峯子さん(上内出)。

参加者は、割り当てられたお金と時間を使って、環境・経済・社会のバランスを取りながら施策を進めていきます。ゲームではゴールを目指すとともに、社会的課題の解決を体験します。



お金と時間を工面しながら施策を進めていきます

🌈 ゴミはしっかり分別



紙やプラスチック、アルミやガラスなどのゴミを分別し、リサイクルにまわしましょう。



🌈 電気を節約する



使っていない電気製品は、省エネのため電源をオフにしたり、省エネ機器を導入するなどしましょう。消費電力が設定温度で変わるエアコンは、夏は高め、冬は低めに設定しましょう。

🌈 生鮮食品や残り物は冷凍する



生ものは傷みやすいもの。残り物を無駄にしないために早めに冷凍し、食品ロスを減らしましょう。



私たちができる「SDGs」の取り組み例

🌈 地元で買い物する



できるだけ地元で買い物し、地元の産業や企業を支援しましょう。道の駅「あぐりーむ昭和」の旬菜館では、村内の農家や事業者の皆さんが生産した商品を買うことができます。

🌈 マイバッグ、マイボトル、マイストローを使う



プラスチックゴミを減らすため、レジ袋を買わずにエコバッグを活用し、詰め替え可能なマイボトルやカップを使いましょう。



🌈 節水に努める



水道の蛇口をこまめに止めたり、流しに油を流さないで拭き取りましょう。

🌈 赤い羽根募金に寄付



赤い羽根募金など、お年寄りや体が不自由な人、災害で困っている人たちのために寄付をしましょう。



🌈 簡易包装の品物を買う



多くのゴミを出す過剰包装の品物は避け、簡易包装のものを買いましょう。

🌈 徒歩や自転車で移動



天気の良い日は徒歩や自転車で通勤・通学したり、買い物に出かけましょう。

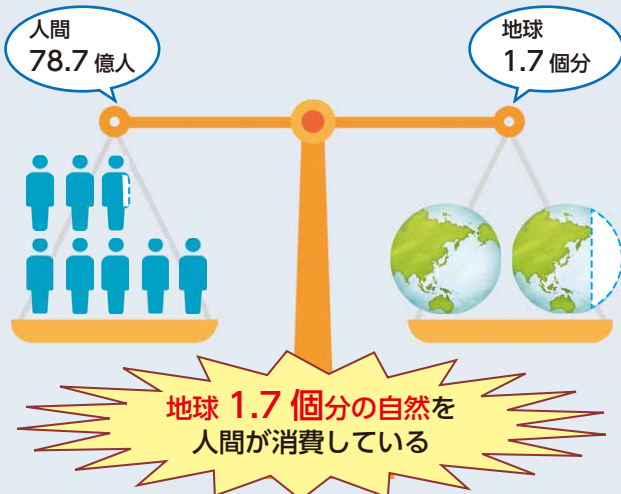


column

地球はすでに限界を迎えている!?

人は、朝起きてから夜寝るまでの間に、食事や電気、ガソリンといった多くの自然資源やエネルギーを使っています。

そこで、人類が環境にかけている負荷を世界規模で計算した結果、**人類の消費は現状で、地球1.7個分の大きさに相当することがわかりました。**



今回ご紹介した「2030 SDGsゲーム」では、自分が実行した施策が世界にどのような影響を与えるかが「見える」ようになっています。世界の状況をよくすることも、悪くすることもできます。まさに「世界はつながっており、私も起点である」ということです。まずは私たちのできるところから、SDGsに参加してみませんか。



施策の完了を報告すると世界情勢が変化します